

北マリアナ諸島ロタ島(Rota,CNMI)による
日本の地方自治体との交流事業の希望

2017年2月
在サイパン領事事務所

ロタ市(北マリアナ諸島ロタ島所在)より、学生交流を中心とし、経済・文化・社会各側面の相互理解の促進を目的とした外国自治体との協力関係の強化の一環として、日本の地方自治体との交流事業の実現を目指しており、パートナーとなりうる日本の地方自治体を探したいと要望がありました。以下、北マリアナ諸島ロタ島の概要を紹介いたします。

1. 島の概要

(1)所在地・地勢

米国領北マリアナ諸島は北端のファラオン・デ・パハロス島から南端のロタ島までの南北にわたって相連なる14の島嶼より成り、地理的にはほぼ北緯14～21度、東経145～146度の間に位置している。ロタ島は、グアム島から北東に約76キロにある。太平洋戦争中、米軍の攻撃をあまり受けなかったため、サイパンやテニアンとは異なり、島全体に原生林が多く残っている。



(2)面積

約85.38平方キロメートル

(3)人口

2,527人(2010年米国国勢調査)

(4)日本との時差

+1時間

2. ロタ島の歴史

●ロタはスペイン、次いでドイツに統治された後、第一次世界大戦中の1914年に日本軍が赤道以北のドイツ領南洋諸島を占領したことにより支配権は日本に移った。

●1920年に日本を受任国とする国際連盟の委任統治領となり、南洋興発株式会社の製糖工場やリン鉱石採掘工場が敷設され、一時代を築きあげた。



←サトウキビ工場と機関車

●太平洋戦争中は、米軍の上陸は無かったため地上戦は行われず、周辺から孤立した状態に置かれた。1944年になると日本軍守備隊が増強され、最終的に海軍2000名（第五六警備派遣隊、設営隊、航空隊基地要員）、陸軍950名に至る。陸海軍総指揮官は、陸軍歩兵少佐の今川茂男が務めた。1944年6月19日には、マリアナ沖海戦に参加してF6Fヘルキヤット戦闘機に追跡された彗星艦上爆撃機(阿部善朗大尉、中島米吉少尉)が不時着している。この阿部大尉が海軍部隊の指揮官となり、ロタは日本本土空襲に向かうB-29爆撃機の機数・方位を無線で大本営に警告する役目を担った。設営隊がいたため、大工、鍛冶屋、理髪、縫製などの専門家に事欠かず、演芸部も編成され、米軍の空襲を受けながらも比較的平穏な日々が続いた。



←現在のロタ空港

●1945年9月2日、ステント米海兵隊大佐が率いる駆逐艦が投錨し、アイオワ級戦艦「ミズーリ」で行われた日本の降伏調印式より1時間遅れた午前11時、局地降伏調印式が行われ、9月4日に、日本海軍1853名、日本陸軍947名がロタを離れた。ロタ島内での戦没者は海軍152名、陸軍84名だった。

●戦後は国際連合によるアメリカ合衆国の信託統治領となり、1978年以降はアメリカ合衆国の自治領となる。

3. ロタ島の特産品

特産品はタロイモ・さつまいもがあげられ、空港又は道端で農家が袋詰め販売している。ホットペッパーソース「ロタバスコ」はタバスコに似た調味料。民芸品では、ロタが元祖というボージョボー人形、ビーズの手作りアクセサリ、タコノキの葉で編んだ籠・バッグ等。また解禁時に、ロタ島の鹿やヤシガニの料理が食べられる。

4. ロタ島の観光名所

(1) タガストーン遺跡



タガストーン遺跡は、古代チャモロ族の遺跡。古代チャモロ王朝時代に使われたラッテ・ストーンの花切り場であり、ここで切り出した石をサイパンやテニアン、グアムまでカヌーで運んだとされる。

(2) 千本ヤシ



太平洋戦争後、米国政府によって1000本のヤシが植林された場所。現在は数こそ数百本に減っているが、伸びたヤシが整然と並ぶ様子はいかにも南国的で、島を代表する観光スポットとなっている。

(3) サン・フランシスコ・デ・ボルハ教会



サン・フランシスコ・デ・ボルハ教会は、ソンソン村の中心にあるカトリック教会で、島民の信仰の中心となっている。教会の鐘は戦時中に使われた砲弾が使われている。

(4) トンガ洞窟



トンガ洞窟は、ソンソン村の北にある天然の鍾乳洞。南太平洋のトンガからカヌーで渡来した人々が居住したことから名付けられた。太平洋戦争中は日本軍の野戦病院として使用され、「神威洞」と呼ばれていた。

(5) ロタ洞窟博物館



ロタ洞窟博物館は、タタチヨ岬の近くにある洞窟を展示場にした博物館。洞窟は高さ30m、奥行き80mもあり、日本統治時代は日本軍の弾薬庫として使われていた。古代チャモロ人が使っていた土器やスペイン統治時代・日本統治時代の日用品、太平洋戦争で使用した武器などが常設展示されており、ロタの歴史を垣間見ることができる。

(6) テテビーチ



ロタ空港とソンソン村のちょうど中間くらいにあるメインビーチ。白砂の美しさはロタ島随一。遠浅で波も穏やかなので、子供連れも安心して海水浴が楽しめる。

(7) バード・サンクチュアリー



岬の崖下一帯が熱帯ジャングルになっていて、アカアシカツオドリのほか、シロアシ、オオグンカンドリなど約40種の野鳥が飛び交う様子が、崖の上に造られた展望ルートから眺められる。

(8) スイミング・ホール



海沿いにある自然の岩礁穴で、真水が湧き出し、海水と混ざり合って天然プールのようにになっている。透明度が高くフィッシュウォッチングもできてシュノーケリングに最適だが、海が荒れている時は引き込まれる恐れがあるので注意が必要。

(9)旧日本軍砲台



太平洋戦争中に一度だけ使用された旧日本軍の砲台で、7mの砲身がコンクリートで囲まれ、奥には防空壕も残っている。

(10)タイピンゴット山(ウェディングケーキマウンテン)



ソンソン村の西に突き出した、標高約143mの平たい台形の山。形が段の付いたケーキのように見えることから、別名「ウェディングケーキ・マウンテン」とも呼ばれている。山中にはシカなどの野生動物が生息し、特別保護区に指定されている場所。

5. 文化交流

過去に姉妹都市だった可児市との文化交流を行っていたが、現在は他に文化交流が出来る姉妹都市を探している。